

11/06/20 端末管理ソフト CDMS 3.0 がリリースされました。

CDMS(Centerm Desktop Management System)はクライアント端末の一元管理ソフトとして高く評価されています。CDMS の開発メンバーは常に企業や団体のニュースを踏まえて管理面、操作面やライフサイクルを考えながら、より良いバージョンを提供できるように全力を尽くしております。

今回の、CDMS3.0 のリリースでは今後急速な拡大が予測されるクラウドに対応したクライアント管理において、VPN を利用した外部端末、離れている支社端末の管理を強化しました。

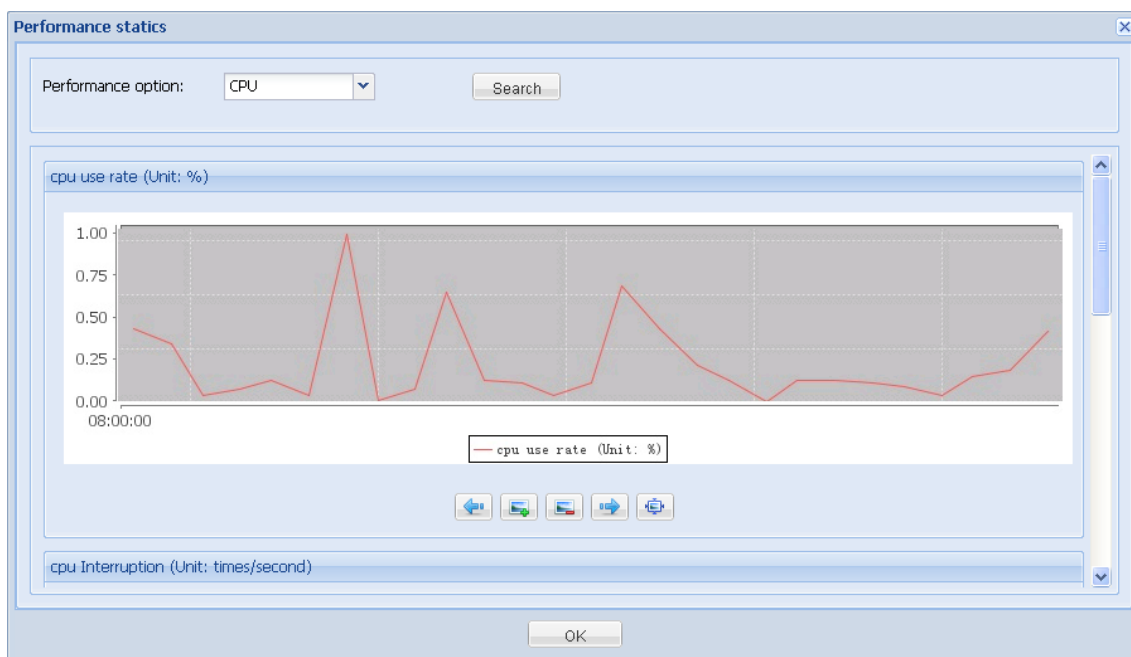
従来のCDMS2.1の後継として位置づけである上位機能版、CDMS2.1の機能に加え、大量のクライアント管理に焦点を当てたクライアント端末のリソース使用状況のリモート監視、統計、管理及びアラーム管理の機能が追加されました。また、ユーザインターフェイスが大幅に改善され、クライアントの管理者にとって操作が非常に容易になりました。

CDMS3.0 から、以下の新しい機能が追加されました。

1. リソース使用状況のリモート監視

端末のリソース使用状況のリアルタイム監視、指定時間の自動監視、リソース使用率のチャート作成ができるようになりました。監視できる項目は、プロセス実行状態、CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク接続、ネットワークカードの使用状態となります。

➤ CPU の使用状況のチャート



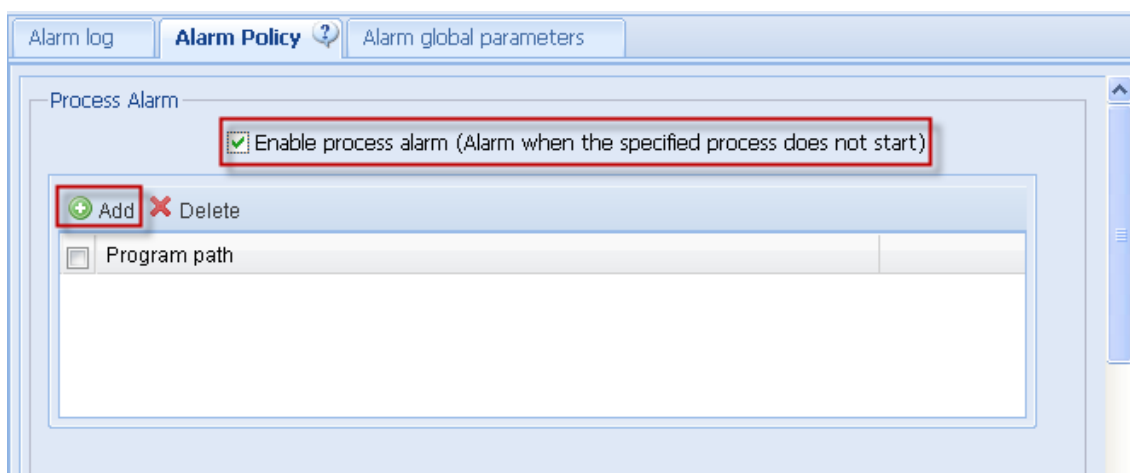
2. アラーム機能

大量の端末が存在する場合は、端末の監視、エラー状況の把握が管理者にとって、大きな負担になります。アラーム機能をご利用することで、監視したい項目をある閾値に指定し、指定した閾値を超えたら、自動的に CDMS サーバーにメッセージを送信し、管理者がこのメッセージに対して適切な対応が可能になります。

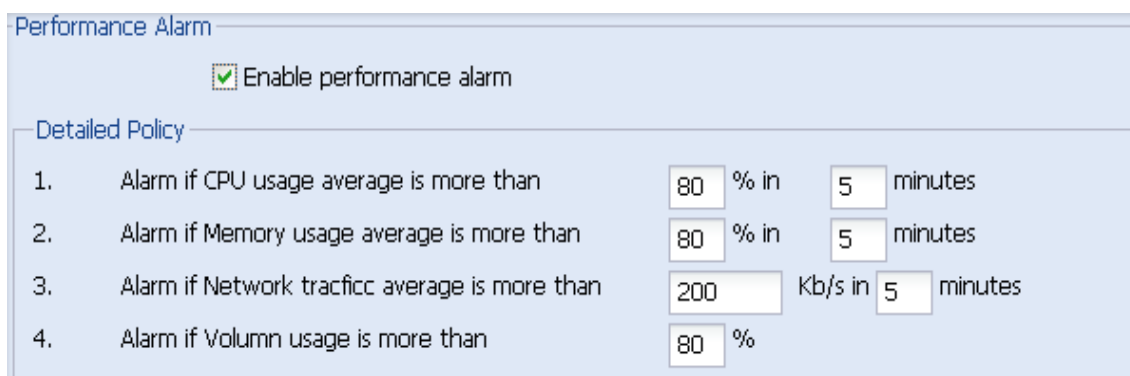
アラームを設定できる項目は以下となります。

- ・プロセス: 指定したプロセスの死活監視、アラーム送信
- ・パフォーマンス: CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク IO の使用率の監視、アラーム送信
- ・オンライン・オフライン: 端末の指定時間内の死活監視、アラーム送信
- ・ハードウェア: 変更の監視、アラーム送信
- ・ その他: IP 変更、アクセスポリシー違反、ジョブ実行失敗、端末へログオンユーザー変更の監視、アラーム送信

➤ プロセス: 指定したプロセスの死活監視、アラーム送信



➤ パフォーマンス: CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク IO の使用率の監視、アラーム送信



➤ 端末の特定時間内の死活監視、アラーム送信

Online/Offline alarm

Enable Online/Offline alarm (Alarm when clients do not upline or downline in the specified time section)

Log in time from: ▼ To: ▼

Log out time from: ▼ To: ▼

➤ ハードウェア:変更の監視、アラーム送信

Hardware Alarm

Enable hardware alarm (Alarm when client hardware changes)

Detailed Hardware

CPU Hard Drive Memory

Monitor Graphics card

➤ その他:IP 変更、アクセスポリシー違反、ジョブ実行失敗、端末へログオンユーザー変更の監視、アラーム送信

Other Alarm

Enable IP change alarm (Alarm when client IP changes)

Enable access alarm (Alarm when contrary to access security policy)

Enable job alarm (Alarm when client failed to execute the job)

Enable user alarm (Alarm when the log in user of the client changes)